

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和6年4月26日
タイトル	地域の生物多様性シンポジウムに参加！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和6年4月13日（土）福山市のまなびの館ローズコムにおいて「地域の生物多様性シンポジウム」が開催されました。約170名が参加し会場は熱気に包まれ、このテーマに大きな関心が寄せられている事を実感しながら取材しました。

このシンポジウムは、芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会・スイゲンゼニタナゴを守る市民の会・びんご自然史研究会の主催で開催され、水土里ネット福山（福山市土地改良区）は芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会の一員であることから参加しました。

シンポジウムでは「広島県の生物多様性と希少種の状況～」として6つの講演が行われました。「広島県の野生生物の状況」「いつの間にか・・・～昆虫たちの状況」「福山のスイゲンゼニタナゴ」「里海のトビハゼと里山の小型サンショウウオ」「里山のたからもの、オオサンショウウオの現状と未来」「広島県のナゴヤダルマガエルの現状と保全」と題して、それぞれ専門的に研究、調査をしておられる講師の先生方から生物の分布や現状をお聞きしました。

どの研究も長い年月、辛抱強く現地に赴いて調査し、その結果を分類することで現状の把握と今後の対策を考えることができるのだと思いました。

また、今回のように多種多様な生物について意見交換することで、共通の問題や連携できることが具体的に分かるのではないかと思います。

普段の生活では、河川や海、水路などにどのような生物が生息しているのか考えることが少ないですが、多くの貴重な生物が広島県に生息していることをお聞きし、いつも目にする生物をもっと注意深く見てみようと思いました。



お話をお聞きし、日本が古来より培ってきた農業用水路や田んぼなどの里山の営みが生物多様性に大きな役割を果たしてきた事が分かりました。

様々な生物が減少し絶滅の危機に瀕しています。環境との調和が考えられていなかった時代に行われた事業により減少したもの、水路が三面コンクリートになることで徐々に減少していったもの、水路の堰の段差や稲作の変化で生じる水位など人間から見たら些細な事が生物にとっては大きな障害になっている事や農業従事者の高齢化により里山が荒廃しイノシシによる被害なども大きな要因と考えられます。

また、平成30年に発生した西日本豪雨により河川に生息する生物も甚大な被害を受け生態系が回復していない事をお聞きしました。

講師の「それぞれが正しいと思ってやった事が、ちぐはぐになって生態系が乱れている。」という言葉が印象に残りました。

水土里ネット福山では、農業用水路の健全な維持管理や用水の安定確保とともに、生物の生態系にも考慮した施設の有り方や利用について様々な角度から考えていかなければならないと思いました。

また、農業従事者である組合員と様々な立場の関係機関が共通の認識を持つように架け橋のような役割をしていきたいと思います。

同時に開催された「びんごの生きもの写真展～地域の生物多様性～」では、福山市や周辺の備後地域で撮影された動植物の写真が多く展示されました。



普段何気なく目にしている風景に多くの生物が生息していることに気づかされます。

「ササユリ」の写真を見て、生家の裏山に咲いていて甘い香りがした事を思い出しました。

幼い頃の体験は鮮明に残るものだと実感しました。

今の子ども達にも生物や植物に触れ合う体験をさせてあげたいと思いました。